

評価結果公表票

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	270301104
法人名	医療法人仁泉会
事業所名	グループホームしろがね
所在地	八戸市大字白銀町字田端6-1 (電話) 0178-32-1577
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(平成19年8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費300円/日 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要( 8月10日現在 )

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.9 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	シルバー病院、山本歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「私たちは思いやりをもって、こちよく安心して暮らせるグループホームをめざします。」という理念を掲げており、管理者始め全職員がホームの役割や理念を認識した上で、その実践に向けて日々取り組んでいる。  
 町内会に加入し、清掃活動等の行事に参加したり、地域向けに「認知症を知ろう」教室を開催する等、ホームの機能を地域に還元しながら交流を図っている。  
 利用者と一緒に食事の準備や後片付けをしたり、花壇作りや畑仕事を行う等、利用者に力を発揮してもらうとともに、収穫したものを食卓に出す等、作業が楽しみにつながるような工夫が行われている。  
 共用空間には畳やソファコーナーが設置されているほか、サンルームを増設する等、利用者が一人でもくつろげる場所が確保されている。  
 法人として教育委員会や環境委員会、身体拘束廃止委員会等を設置して利用者へのより良いケアの提供に努めるほか、同法人の訪問看護ステーションによる定期的な訪問や健康管理相談を受ける等、法人内での連携が十分に図られている。

【特に改善が求められる点】

ホーム独自の理念が掲げられているが、全職員で再検討を行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。  
 虐待や身体拘束に関するマニュアルを整備する等の取り組みは行われているが、より理解を深めるための学習が職員個人レベルにとどまっているので、外部研修への派遣や定期的な内部研修の実施を計画する等、ホームとしての取り組みに期待したい。  
 災害時に備えて飲料水は用意されているが、数日分の食料や寒さをしのげる物品等も用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は全職員に報告しており、改善すべき点は会議で話し合い、取り組めることから具体的に実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は会議等で評価の意義や活用方法等を職員に周知しており、全職員が自己評価の意義を理解した上で、カンファレンス等で話し合っており取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、メンバーには会議の意義や役割を分かりやすく説明し、理解してもらっている。また、メンバーが意見を話しやすいよう和やかな雰囲気作りを心がけている。会議では日々の取組みのほか、自己・外部評価への取組みについても報告しており、メンバーから出された意見を基に職員間で話し合い、より良いサービス向上につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや面会時等を活用して利用者の暮らしぶりや受診状況等を家族に報告している。ホーム内に苦情箱を設置したり、運営推進会議や面会時に声がけして家族が意見等を話しやすいよう配慮するほか、ホーム内外の苦情受付窓口をホーム内や重要事項説明書に明示したり、面会時に繰り返し伝える等の取組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の会合に参加したり、運営推進会議を通じて地域にホームを理解してもらえるよう取り組んでいる。また、ホームの行事に住民が参加したり、広報紙にボランティア募集の記事を掲載する等、地域に開かれたホーム作りを行っている。</p>
重点項目④	

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>月1回の会議で理念や運営方針を共有するとともに、理念にそったケアを提供できるよう検討し、日々実践している。</p> <p>法人内に教育委員会が設置されており、年間研修計画を立てて、職員個々の力量等に応じた研修に派遣している。受講後は報告書を基に会議で職員に周知する等、職員間での共有が図られている。</p> <p>地区のグループホーム協会に加入して積極的に研修に参加するほか、法人内のグループホーム同士で交換研修を実施する等、同業者との情報交換を行い、得られた気づき等を日々のケアに反映させている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用前にはホームを見学してもらったり、利用希望者や家族の意向等を十分に聞き、信頼関係を築くよう努めている。</p> <p>職員は利用者と一緒に作業を行っており、畑作業等の利用者が得意なことは教えてもらう等、利用者と職員が協同して生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々の関わりや家族からの情報収集により、一人ひとりの意向を把握しており、職員から出された気づきや意見も反映させて介護計画を作成している。計画は毎月見直しを行うほか、利用者の状態変化や家族の意向等の変化があった時は随時の見直しを行っている。</p> <p>「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」が整備されており、重度化した場合や終末期の対応について家族や医療機関との意思統一を図っている。また、状態変化等がある時には随時の話し合いを行い、今後の方針を決めている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、利用者を「人生の大先輩」として接しており、利用者個々のペースを守り、利用者を傷つけない対応を心がけている。また、利用者と職員が一緒に作った装飾品を公民館に展示してもらっており、日々の楽しみや利用者の活動意欲の向上につなげている。</p> <p>同法人の栄養士が献立を作成しており、栄養バランスに配慮された献立となっているほか、食事や水分の摂取量を把握し、健康管理に努めている。</p> <p>感染症の予防・対応マニュアルが全職員に周知されているほか、定期的な研修会への参加等により知識を深めている。また、感染症に関する情報は広報紙等を通じて家族にも提供されている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。「私たちは思いやりをもって、ここちよく安心して暮らせるグループホームをめざします。」という理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	全職員で再検討を行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を反映させることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者と職員で話し合っ作成している。管理者は、月1回の会議で理念や運営方針を職員に周知するほか、理念にそったケアを提供できるよう毎月検討し、その実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、町内の清掃活動や地区の運動会、会合に参加するほか、運営推進会議を通じて地域にホームを理解してもらえるよう取り組んでいる。また、ホーム行事を開催する時には住民の参加を促したり、ホーム主催の「認知症を知ろう」教室を地域向けに開催するほか、広報紙にボランティア募集の記事を掲載する等、地域に開かれたホーム作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は会議等を通じて評価の意義や活用方法を職員に周知しており、全職員が理解した上で、カンファレンス等で話し合って自己評価を作成している。外部評価の結果は全職員に報告し、改善すべき点については会議で話し合い、取り組めることから具体的に実践している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、メンバーには会議の意義や役割を分かりやすく説明し、理解してもらっている。また、メンバーが意見を話しやすいよう和やかな雰囲気作りを心がけている。会議では日々の取り組みのほか、自己・外部評価への取り組みについても報告しており、メンバーと検討した経過を職員間で話し合い、より良いサービス向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当課に定期的に広報紙を配布するほか、常に連絡を取りあって情報交換を行っており、助言をもらう等の連携を図っている。また、運営推進会議にも参加してもらっており、自己・外部評価の結果を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業等に関する研修に職員を派遣するほか、その後の伝達研修を行っており、全職員が制度の概要を理解している。制度を利用している方はいないが、利用者や家族等には制度の周知を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成し、虐待を発見した場合の対応等について取り決めがある。また、管理者は職員の日々のケアを観察したり、職員がストレスを溜め込まないように話を聞く等、虐待を未然に防ぐよう努めている。職員個人レベルで虐待について学習しているが、ホームとしての勉強会等が行われていないこともあり、全職員が虐待について十分理解するまでには至っていない。	○	外部研修に職員を派遣したり、その後の伝達研修や内部研修を実施する等、全職員が虐待について十分に理解できるようなホームとしての取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前にホームを見学してもらう等、利用者や家族にホームの理念やケアの方針等を十分に説明し、同意を得ている。契約改訂時や退居時にも十分に説明しており、退居時には必要に応じて退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や手紙等で利用者の暮らしぶりや受診状況等を定期的に報告している。また、金銭管理については金銭管理表と領収書のコピーを家族に送付して確認してもらっている。職員の異動については面会時に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の場を活用して家族が意見等を話せるよう声がけなどを行っている。ホーム内外の苦情受付窓口はホーム内や重要事項説明書に明示するほか、面会時等に繰り返し家族に伝えている。また、苦情箱も設置している。家族から意見等が出された時には会議で検討し、迅速に対応するよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行われているが、利用者への影響に配慮して最小限に抑え、なじみの関係を大切にケアを提供している。異動の際には職員間の詳細な引継ぎや、利用者への丁寧な説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会が設置されており、年間研修計画を立て、個々の経験年数や職種、目標にそった研修に職員を派遣している。受講後は報告書を作成し、会議で全職員に伝達している。また、職員を研修に派遣する際には利用者へのケアに支障のないよう、職員間で勤務調整を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入しており、協会が開催する研修に積極的に参加している。また、法人内のグループホーム同士で交換研修を実施する等、同業者との情報交換を行い、得られた気づき等を日々のケアに反映させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学してもらったり、利用希望者や家族の意向等を十分に聞いており、信頼関係を築き、利用希望者や家族が安心してサービスを開始できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に作業を行っており、畑作業等の利用者が得意なことはアドバイスをもらう等、利用者と職員が協同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から一人ひとりの思いや希望、意向等を把握している。また、意思疎通が難しい利用者については職員間で話し合いを行ったり、家族等からの聞き取りを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には利用者や家族の意向を取り入れているほか、カンファレンスで職員の気づきや意見を十分に話し合った上で作成しており、利用者本位の内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、毎月見直しを行っている。また、日々の関わりや家族からの情報により、利用者の身体状況や家族の意向等について変化を察知した時には随時の見直しを行う等、迅速に対応し、現状に即した内容となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの連携を図り、健康状態の把握や24時間体制での医療支援体制を整えるほか、馴染みの理美容院や近くのスーパーに出かける等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、24時間いつでも対応してもらえる体制が整備されている。また、通院方法や受診結果の伝達については家族の希望に合わせて対応しており、受診結果はその都度家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」が整備されており、重度化した場合や終末期の対応については利用者や家族、医療機関との意思統一が図られている。また、利用者の状況等に変化がある時には、随時の話し合いにより今後の方針を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者は「人生の大先輩」とであると尊敬して接しており、利用者を傷つけない声かけや対応を心がけている。また、研修等を通して個人情報保護法について理解しており、個人ファイルは鍵のかかる書庫に保管したり、広報紙に写真を掲載する際には利用者や家族の同意を得る等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースや希望に柔軟に対応しており、その人らしい表情がでるようなケアを心がけている。また、その日の体調等にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを献立に取り入れるほか、利用者と一緒に作った野菜を食材として使用する等の配慮を行っている。また、希望に応じて一緒に調理や後片付けをしたり、さりげないサポートをしながら職員も一緒に食事を摂る等、食事時間を楽しめるような工夫を行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お湯の温度や順番等、利用者の希望を取り入れている。また、入浴は週2回となっているが、要望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者に対しては無理強いすることなく、気持ちを落ち着かせ、タイミングを見計らって促す等の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを把握しており、職員も一緒に装飾品を作る等、利用者の楽しみへとつながるよう支援している。また、作品は公民館に展示してもらっており、散歩時に見学に出かける等、活動意欲につなげている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、畑作りを行ったり近所のスーパーや散歩等に出かけている。外出時は心身の状況を考慮し、負担にならない場所を選ぶ等の配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが整備されているほか、身体拘束廃止委員会が法人に設置されており、やむを得ず拘束を行う場合は委員会に諮るとともに、家族の同意を得る体制となっている。職員個人レベルで拘束について学習しているが、ホームとして全職員に周知徹底を図る機会が確保されておらず、全職員が十分に理解するまでには至っていない。	○	外部研修への派遣や定期的な内部研修の実施等、全職員が拘束について理解を深められるようなホームとしての取り組みに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵をかけておらず、自由に出入りすることができる。やむを得ず施錠する場合には家族に説明し、同意を得る仕組みとなっている。居室には内鍵がついており、希望により鍵をかけている利用者はいる。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は職員が付き添っている。また、無断外出時に備えて住民に通報協力を依頼している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定したケースも含めて定期的に利用者と一緒に避難訓練を行っている。また、訓練時には地域の協力を得ている。災害時に備え、飲料水を用意しているが、食料や寒さをしのげる物品等を用意するまでには至っていない。	○	飲料水だけではなく、食料や寒さをしのげる物品、トイレ等も用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は同法人の栄養士が立てており、栄養バランスやカロリーに配慮したものとなっている。食事や水分の摂取量を把握しており、必要に応じて補食を提供する等の対応を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対応マニュアルが作成されており、全職員への周知が図られている。また、保健所等から最新情報を収集しており、その都度マニュアルの見直しを行うほか、定期的に感染症に関する研修会に参加し、理解を深めている。感染症に関する情報は広報紙等を通じて家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境委員会が設置されており、玄関周りの花壇の整備が行われている。共用空間には畳やソファコーナーが設置されているほか、手作り品や季節の花が飾られており、家庭的である。職員の声や足音、ラジオ等の音量は適切であり、また、ホーム内の照明も適当である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう家族に働きかけるほか、畳の部屋が希望であればフローリングに畳を敷く等、一人ひとりが居心地良く過ごせるような工夫が行われている。		

※  は、重点項目。